



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2009年7月現在、川崎2、横浜5、県域11 計18名で活動中!!

## ～ '08 9/14 神通研集会報告⑧～

<グループワーク> 1時間

「手話サークルで起こる問題」5項目の順位づけ

- A 思っても意見するのが難しい
- B 声だけで会話し話の内容が掴めない
- C お互いの手話が通じない
- D 手話だけを学び、手話に学んでいない
- E ろう者の参加が少ない

「合意し合うための指針」

- 1、情報共有と確認をしましょう
- 2、一人ひとりの順位づけの基準を聞き合いましょう
- 3、順位づけするためのルールを作りましょう
- 4、一人のゴリ押しや多数決では決めない

1グループ DBEAC

Dが一番というのは早い段階で決まった。他の問題は全てDにつながっている。

サークルが学習中心になっているので、教えるろう者以外の聴こえない人が参加しにくい。

2グループ BDEAC

手話サークルなので下手でもいいので手話を使いましょうということでB。BDの理由がEにつながっている。

3グループ D

Bの状態の時にAなのでEになる・・・とつながっている。

そのようにならないようにサークルではっきりとした目的やルールを作っておかないと壁に突き当たる。

## ～ 定例会 '09/6/21 (日) ～

9月の集会準備も着々と進行しています。役割分担をした時に、メンバー全員が二つ返事で受け取れるところが、サークル研究班のすばらしさ!!

サークルの悩みについても話し合いました。ろう者と1対1だと一生懸命手話で伝えようとするのに、何人かの健聴者の目があると遠慮してしまう・・・手話表現に対して厳しい目を向け、手話での会話を楽しめなくしているのは健聴者同士なのかもしれない。

【次回定例会】

7/26 (日) 12:10~14:00  
県民活動サポートセンター 307

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

耳の不自由な同級生の願いで、高1の時「手話」を習い始めました。

お勤め帰りの大人ばかりのサークルで学習会や行事に参加。他の異なる活動団体との交流もあり、すっかりはまってしまいました。

ある日、活動団体有志が集まり「もちつき」行事が始まりました。施設を回り餅をつき、その間、演芸団体の演奏やマジックなどが披露されます。

メンバーは親となり、子連れで参加。その子どもも大学生となり、私よりも先にお嫁に行くかな?!

ペンネーム はたちちゃん